

1 古代原野谷の曙

筆 者 中村 房男

標高832mの八高山を源とする原野谷川が中流域に形成した和田岡段丘は掛川西方に広がっている。和田岡段丘は標高60m前後の吉岡原と呼ばれる上位段丘と、標高40－50m前後の高田原と呼ばれる下位段丘に区分されている。上位段丘面には7000－8000年前に人が生活していた痕跡が在る。

高田原と呼ばれている下位段丘面に、弥生時代後期から古墳時代に掛けて、大集落が形成された。現在は、近在の各和地区・高田地区・吉岡地区の各地区の一字を取り和田岡と言っている。

1622年、徳川家康の重鎮、大久保彦左衛門が家訓として残した「三河物語」に、この地を「すくもだが原」と記述している。高天神城主として、翻弄し続けた小笠原氏が甲州へ落ち延びる時に通った道である。

和田岡原の南北2,2km・東西1,2kmに、西暦400年前後から500年前後にかけて、前方後円墳4基と円墳1基が築造された。近距離での大型古墳の群集は掛川市の他の地域には無い。現状は比較的原型の残りが良好である。

古墳の始まりについては、弥生時代の終わり頃まで、倭国(日本)は、地域国家の割拠状態が続き、邪馬台国女王「卑弥呼」は中国魏の後ろ盾も有り割拠状態を纏め、奈良県東南部天理市・桜井市に「大和政権」を樹立した。古代統一国家の誕生である。女王卑弥呼は、西暦250年頃に死亡し、大きな塚に埋葬された。魏志倭人伝(1700年前に書かれた中国の歴史書)は記述している。この大きな塚が古墳の始まりである。古墳は「権力者の墓」となり、以降、400年間、造り続けられ、全国で推計16万基確認されている。この期間を「古墳時代」と言う。古墳の型は様々で「円形」と「方形」が基準で円形と方形が接続した型を「前方後円墳」と言い、方形部は「前方」とし「参拝の場」、円形部は「後方」とし「埋葬の場」と考えられている。古墳の最高位とされ、規模により「権力者の力」を現している。「卑弥呼の墓」とされている桜井市に現存する規模280mの皇室陵「箸墓古墳」は「円形と方形」が接続した型で、「前方後円墳」の始まりで、世界に類例の無い墓である。

古墳と言う「言葉」は「平安時代の中頃」から出てきます。現在は学術用語として使われていますが「塚」・「大塚」・「陵・ミササギ」とも言われています。

平安時代といえば、「源氏物語」の作者で有名な「紫式部」と同じ頃、著名な女性随筆家「清少納言」が書いた「枕草子」に、「うぐいすは、うぐいすのミササギ」と言う下りが有ります。ミササギとは「皇室の古墳」の事です。「うぐいすのミササギ」は奈良東大寺大仏殿の裏山「若草山」の頂上に在ります。「全長100m」程の「うぐいす塚古墳」の事と言われています。「大仏殿」の左脇の細い道を登って行くと在り、奈良市が一望に見えます。

古代統一国家誕生から150年後、西暦400年—500年倭国は大きな変革期を迎えた。大和・河内・、摂津・吉備・等畿内の巨大な武力を持つ武人的正格を持つ支配者「大王」を中心にする「連合政権」が誕生した。

倭国はどのような社会状況にあったのか、手がかりとして残る資料が在る。

「宋書倭国伝」である。「宋書」とは中国南北朝時代、南朝の宋の国「西暦420年—479年」の歴史書で、宋書に当時の倭国についての記述がある。

概要は・・・倭国の五王が朝貢してきて、中国王朝の臣下になるので官位を求めた・・・との事である。「五人の王」とは誰なのか確定はされていないが、「15代応神天皇」・「16代仁徳天皇」・「17代履中天皇」・「19代允恭天皇」・「20代安康天皇」・「21代雄略天皇」、いずれかが考えられている。

この時代を「倭の五王の時代」と言われる。当時、倭国は「天皇」の称号は無く、「王・大王」で、奈良時代に「天皇」の称号は誕生した。同じく「倭国」が「日本」になったのも奈良時代である。

倭王政権の重要課題である「国土統一」は中国の後ろ盾で進み、鉄の獲得は朝鮮百済との関係強化で交易が拡大し、鉄資源をはじめ、新しい技術や技術者の受け入れ、新しい文化の導入は「文字」の導入で、倭国は大きく飛躍し、倭王権の権力は巨大になり、権力は地方にまで及び始めた。

権力者の墓であった古墳は権力を誇示する「舞台装置」となり、権力者間の結びつきを持つ「シンボル」となり、日本列島を支配する「支配システム」となっていった。

和田岡原に古墳が築造された時期は、西暦400年—500年前後の「倭の五王」の時代で、中央の政治権力が地方に及んだ時期である。背景には、有力豪族」と結びつきを持つ「在地権力者」の存在が考えられる。

5基の古墳中、西暦400年代初頭に築造が考えられる全長66, 4mの規模を持つ「各和金塚古墳」の埋葬人物は、在地の最も強い権力者と考えられ「首長墓」と言われている。

規模の大きさだけでなく「副葬品」と言われる古墳に納められている「モノ」の出土は他を圧倒する。在地では造れない武具を中心に、夥しい鉄製品の出土は、関係を持つ「中央の豪族」の巨大な権力者が想定される。残念ながら1974年、古墳は盗掘されており、出土品は埋葬品の全てとは考えられない。特筆すべきは武具の中に「よろい」の一種で胴部を守る「短甲」が存在していた事である。短甲は弥生時代が始まりで「木製の短甲」であった。

浜松市の伊場遺跡出土の木製短甲は最も古いものである。短甲は身分の高い人物しか身につけることが出来ない「威信財」である。死者を埋葬する際にも身を守る為の物として、埋葬された人物の死体の近くに置かれると言われる。古墳時代は木製から「金属製」に変わった。



短甲の他、幸いにも「太刀、17点」・「剣、35点」・「鉾、2点」・「鉄のやじり・69点」他、残されていた。夥しい、武具の副葬は埋葬された人物像が推測できる。

東海4県の短甲の出土状況(別紙参照)は、静岡県西部の出土が多く、原野谷川流域、太田川流域の出土数は示唆的ある。中央の豪族から与えられた特別な「モノ」であるが、与えた理由は分らないが、中央の豪族像は推測できる

各和金塚古墳は造りも堂々とし、首長墓としての威圧を感じさせる古墳である。

和田岡原に西暦400年代中頃に築造された古墳がある。前方後円墳の変形型で円墳に低く短い方形の張り出しを付けた端正な型で、現在整備中の古墳で規模は全長55mの「吉岡大塚古墳」である。整備は、近隣の和田岡古墳群美化ボランティア「古墳スマイル隊」の協力もあり順調に進み、古墳上に製作済みの円筒埴輪を置き、古墳周辺の整備を残すのみとなり、2023年度には完了予定と思われる。この古墳は茶畑に覆われた和田岡原台地の中程に在り、古墳上からの景観はすばらしい。

近くの「春林院」の御前様は・・・この古墳は時期になると「笹ユリ」の花が群生した。古墳の周り(周溝)は綺麗な水が湧き出て、近隣の人達が泳いでいた。・・・と古老から聞いている。と話されていた。

以来、私はこの古墳を「笹ユリの塚」と呼んでいる。



吉岡原は弥生時代から古墳時代に掛けて大集落が形成されていた。茶畑の改植に伴う遺跡発掘調査が頻繁に行われ、広い範囲に人の生活の痕跡が確認される。出土遺物からは近隣だけでなく、遠方からの移住も推測でき、この地に古墳が築造された背景は理解できる。

この大集落が吉岡大塚古墳築造を最後に台地から姿を消す。1500年前頃の事である。推測では有るが、原野谷川により中流域に安定した沖積平野が造られ、低地への移動が考えられる。原野谷は掛川の発祥の地になったと考えている。

参考文献

季刊・考古学3号・・・1983年・雄山閣

季刊・考古学6号・・・1984年・雄山閣

季刊・考古学67号・・・1999年・雄山閣

季刊・考古学別冊18・・・2012年・雄山閣

季刊・古墳のための年代学・・・平成11年・檀原考古学研究所

埴輪の変貌・・・2005年・檀原考古学研究所

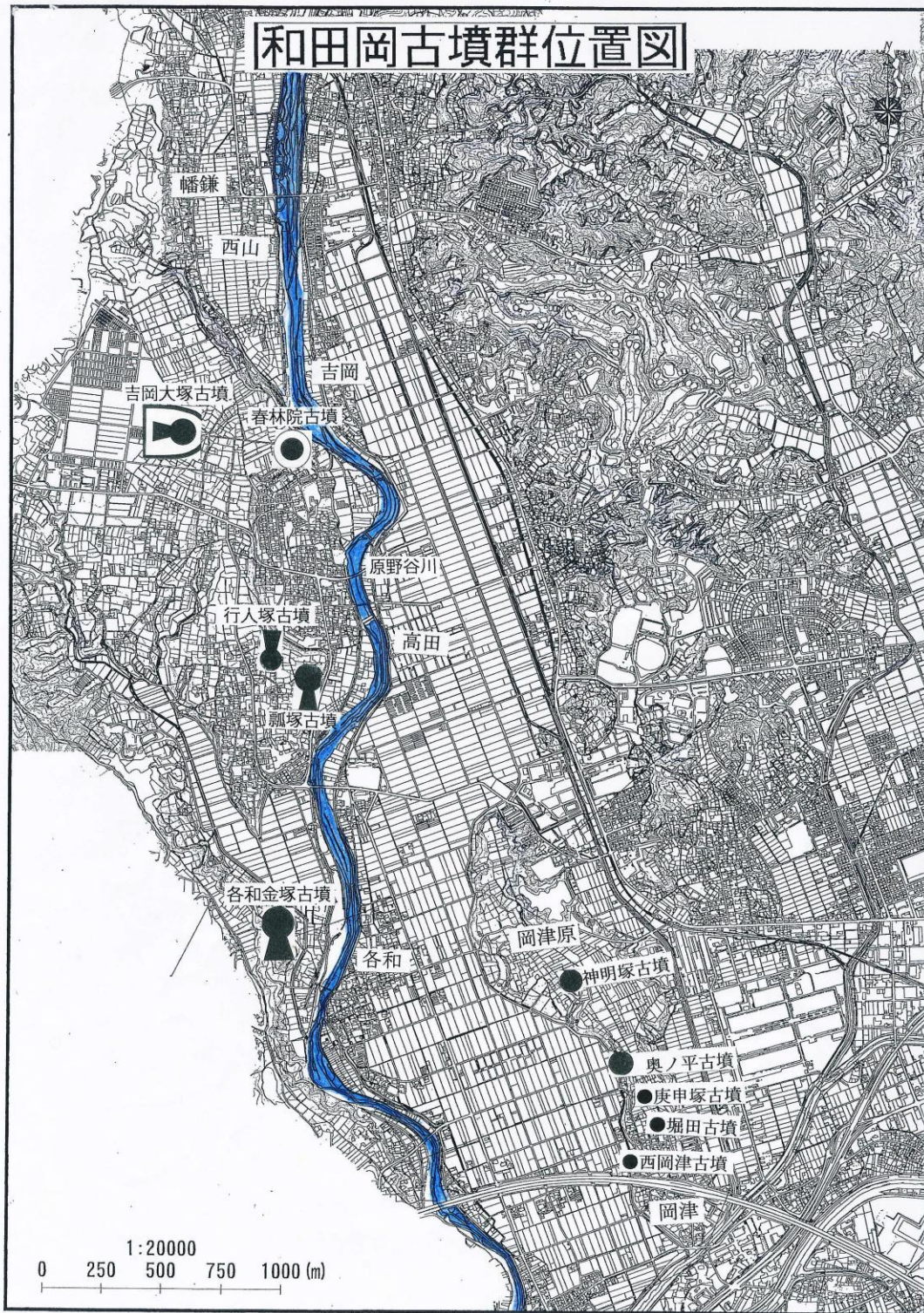
埴輪の始まり・・・2011年・檀原考古学研究所

古墳・・・1990年・末永雅雄

纏向出現・・・2013年・奈良県桜井市

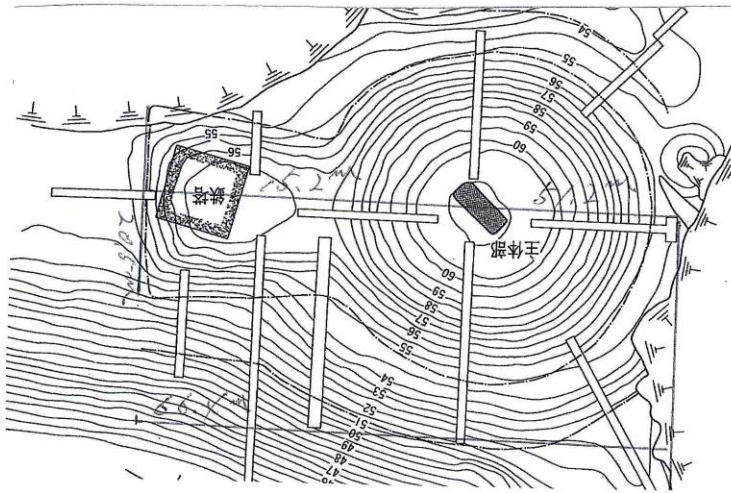
掛川市史

和田岡古墳群位置図



各和金塚古墳

- 1、 1974年盗掘・1980年測量調査
- 2、 築造年代—西暦400年代初頭
- 3、 規模
全長—66, 4m(和田岡古墳中最大規模首長墓)
後円部径—51, 2m 前方部長—15, 2m
後円部高—6, 5m 前方部高—4m
前方部幅—20, 5m
- 4、 後円部二段築成・葺石全面
- 5、 墳頂部平坦面(15, 5m)と中段平坦部面(2m)の縁に円筒埴輪列巡らす
- 6、 埋葬施設
規模
墳頂面から(深さ1, 4m)・(長さ6, 95m)・(幅2, 73m)
- 7、 堅穴式石室(円礫積)・床(ベンガラ塗布小礫)・天井石10枚
規模
石室全長4, 75m・幅(北側0, 85m・南側0, 75m・高0, 40—0, 6m)
- 8 出土品
短甲・刀・剣・鉾・刀子・鉄鎌・滑石製造品(刀子、斧鎌)・円筒埴輪・朝顔形埴輪・埴輪棺



東海 4 県 甲冑(短甲)出土古墳

時期	伊賀	伊勢・志摩	美濃	尾張	三河	遠江	駿河・伊豆
中期中頭	石山						
中期前葉			龍門寺 1 号 (砂行 1 号)		(薬師)	安久路 2 号 各和金家 狐塚 (かわらけ塚)	
中期 中葉	古	わき塚				安久路 3 号 五ヶ山 2 号 千人塚	
	新	(冑塚)	小谷 13 号 佐久米大塚 八重田 16 号	中八幡		文殊堂 11 号	南沼上 3 号
中期後葉	近代	おじょか	南青柳		経ヶ峯 1 号	林 2 号	多田大塚 2 号 多田大塚 3 号
中期末葉		大垣内		志段味大塚		石ノ形	

県別出土古墳

29 基

三重県	9
岐阜県	4
愛知県	3
静岡県	13



古墳時代の鉄製鋳留板甲（短甲）
と小札鋳留眉庇付冑（まびさしつきかぶと）
（東京国立博物館所蔵）（ウィキペディア引用）